SDGs Action Book

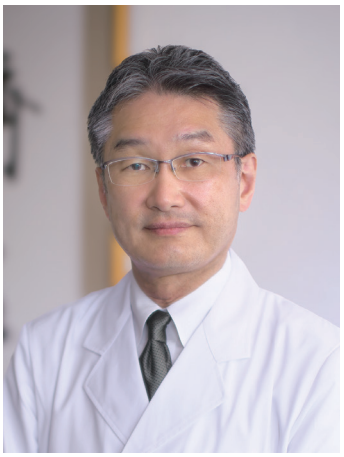
SDGs アクション ブック

済生会飯塚嘉穂病院の取り組み

第５版

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
福岡県済生会飯塚嘉穂病院

発刊のごあいさつ



SDGs（エスディージーズ）とは、2015 年の国連総会において全会一致で可決された「2030 年までに達成する世界目標」であり、Sustainable Development Goals の文字をとったものです。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。

SDGs の理念は「誰一人取り残さない」であり、これは生活困窮者支援事業等を行っている済生会の理念とも通じています。現在、全国の済生会でもSDGsの推進に力をいれており、各施設で様々な取り組みがなされているところです。当院でも、2021年からSDGsに全職員で取り組んでいます。

地域の皆様にもこの冊子を手に取っていただくことで、SDGs を身近に感じてもらい、一緒にこの地域のためになることができればと思っております。

当院は、職員一人ひとりが済生会職員として SDGs の精神を理解し、職員一丸となり地域から信頼され続ける病院を目指しています。

病院長　　関口　直孝

CONTENTS

ACP（アドバンス・ケア・プランニング） …… 1
慢性期疾患患者への支援 …… 1
無料低額診療事業 …… 1
なでしこホットライン …… 2
更生施設でのワクチン接種 …… 2
健康教室（巡回診療） …… 2
ペットボトルキャップ回収 …… 3
ボランティア受入 …… 3
学生の職場体験 …… 3
訪問リハビリテーション …… 4
園芸で心も身体も元気に（園芸療法） …… 4
市民公開講座 …… 4
フレイル予防活動 …… 5
病院内演奏会 …… 5
健康情報誌「なでしこ散策」 …… 5
紫陽花いっぱい運動 …… 6
医工学連携事業 …… 6
済生会健康フェア …… 6
エレトクによる消費電力量の削減 …… 7
落葉で腐葉土作り …… 7
伐採木の再活用 …… 7
5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会 …… 8
フード＆学用品、日用品ドライブ活動 …… 8

ACP アドバンス・ケア・プランニング（人生会議） 看護部

3 すべての人に健康と福祉を　11 住み続けられるまちづくりを　17 パートナーシップで目標を達成しよう

人生の最終段階において、約70%の人(患者さん)は意思決定が不可能な状況になると言われています。ACPとは、将来もし自分で自分のことを決められなくなった時に備え、今の自分の希望や思いを整理するために話し合うプロセスのことです。

当院では、ACPを推進するために「人生会議推進チーム」を立ち上げ、広島県地域保健対策協議会が作成したポスターや手引書を参考に、当院独自の方言を交えたポスターや冊子「私の心づもり」を作成。外来や各部署で掲示し、病院全体でACPを推進しています。

オリジナル ACP ポスター

今後はこの地域にACPが浸透することで、たとえ療養が必要となっても患者さんや地域に住む方々が心豊かに過ごせるようお手伝いができればと思っています。

慢性期疾患患者への支援 看護部

3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに　11 住み続けられるまちづくりを

当院では、糖尿病や関節リウマチ、慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の継続的な医療支援を必要とする患者さんが多く療養しています。これらの慢性疾患を抱える患者さんは、自宅での自己注射や医療処置の継続が必要です。医療者がいない中で、自分の病気と向き合い治療を継続していくことは、本人の理解や行動だけでなく家族や施設職員などの協力が不可欠です。このような方々が住みなれた町や家・場所で生活できるように当院では、在宅酸素療法等の訪問看護や外来での化学療法、生物学的製剤療法を実施しています。

フットケアの様子

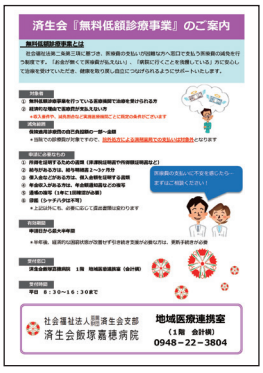
また、糖尿病患者さんへの自己注射やフットケア・勉強会など外来と病棟が連携し、継続的な療養生活が送れるよう他職種ともスムーズな連携を取りながら日々の看護に努めています。

無料低額診療事業 地域連携福祉事業課

3 すべての人に健康と福祉を　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを

済生会は、社会福祉法第二条第三項に基づき、医療医の支払いが困難な方へ医療費の減免を行っています。この制度は、失業や病気などから働くことができず、経済的な理由で治療を受けることができない方に、安心して治療を受けていただくため、無料または低額で診療などを行うものです。当制度により減免となる医療費は、当院診療にかかる医療費の自己負担分です。

制度を利用していただけるかどうかを確認するため、非課税証明書などの必要書類の提出が必要です。また医療ソーシャルワーカーが申請のために家族のこと、生活のことなどお伺いいたします。お金がないことで医療をあきらめることがない地域を目指します。



無料低額診療事業ポスター

なでしこホットライン　地域連携福祉事業課

地域包括ケアシステムでは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域の構築が重要となっています。当院では、地域からのニーズの一つとして最近増えている、施設看取りを行う中での職員の不安等に対応する施設関係者専用の医療相談窓口として、平成30年度よりなでしこホットラインを開設しました。相談窓口には、医療や福祉サービスに精通した「地域包括ケア連携士」が施設からのホットライン（専用電話）の相談に対応してします。

令和元年度には当院の緩和ケア医師、緩和ケア認定看護師、リハビリセラピストによる看取りの講習を行い、その結果、緩和ケア病棟において外部の施設職員に対する看取り実習へと発展しました。

今後もこの地域の特性に応じた取り組みが持続できるよう相談を受け付けていきます。

なでしこホットラインポスター

更生施設でのワクチン接種　地域連携福祉事業課

当院では、生活困窮者に対する支援の一環として、済生会独自の生活困窮者支援事業“なでしこプラン”を実施しています。これは、医療や福祉サービスを受けることが難しい方々への医療・福祉等の増進を図り、保健福祉の向上を目的とした事業です。

当院では平成28年11月より、更生保護施設・田川ふれ愛義塾に入所している方々を対象に、インフルエンザの予防接種を無料で行っています。令和6年度までに計125名、14～36歳の若年層に実施しています。

ワクチン接種の様子

これまで、生活困窮が要因で予防接種をしたことがなかった方や、予防接種の必要性を考えたことがなかった方に対し、予防医療の大切さを知ってもらう機会にもなっています。若年者層の健康的な生活を確保し、社会生活につなげていくための事業として実施しています。

健康教室（巡回診療）　健診センター

健康教室は、高齢者などを中心とした20歳以上の地域の方々を対象に、医師や看護師等の当院職員が地域の公民館等に出向き、健康測定や医療相談、医師による講演などを行うことで、地域住民の健康増進に寄与しています。

この取り組みは、平成19年に県立嘉穂病院から済生会へ移譲を受けた当初より実施しており、当初は開催場所も1地区、参加人数は34名でしたが、地域の要望に応える形で開催地と参加者も年々増加し、令和6年度には11地区で開催、260名の参加がありました。

今後も地域の皆様の健康を守るため、より多くの地域でこの活動を続けていきたいと思います。

医療相談の様子

ペットボトルキャップ回収 総務課

感謝状

当院ではペットボトルのキャップを集め、イオン九州の「ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」を通じ世界の子どもたちにワクチンを届ける取り組みを継続的に行っています。

このキャンペーンはペットボトルキャップを集めリサイクルした収益で、ワクチンがなく病気で苦しむ世界の子どもたちへワクチンを届けるもので、職員が休憩するための場所で回収しています。職員の中には、大きな袋にギッシリとキャップを集めて持参する職員もおり、困っている子どもたちを助けたいという意識の高さに驚かされることもあります。

ささやかではありますが、皆で集めたキャップが世界の子ども達の健康に寄与し、笑顔につながる助けになればうれしいという想いで今後も継続していきたいと思います。

※この取り組みは職員のみとしており、一般の方からの回収は行っておりません。

ボランティア受入れ 総務課

ボランティアの様子

緩和ケア病棟では、病室から庭園を臨むことができ入院患者さんの癒しとなっています。その整備には当院職員だけでなく、地元のボランティアの方々も携わっています。時折、患者さんのご家族とボランティアの方が一緒に庭の手入れをする場合もあり、楽しい時間を過ごされているようです。

また、地元の福岡県立嘉穂総合高校農業食品科の授業の一環で、先生と生徒のみなさんにも花の植栽や手入れをしてもらいました。みなさんのおかげで、緩和ケア病棟の庭園は美しく保たれています。患者さんやそのご家族だけでなく、病院スタッフも気持ちよく過ごせる環境が整っており、当院の自慢できるポイントの一つとなっています。

ボランティアさんが作業している姿を見ると、この病院が地域と共にあることを改めて感じます。

学生の職場体験 総務課

職場体験の様子

毎年、地元の中学校や高等学校から卒業後の進路選択、働くことの意義等を学ぶために職場体験の受け入れを行っています。体験学習中、生徒さん達は皆一生懸命に学び、教える病院スタッフも、わかりやすい説明や可能な限り色々な経験ができるよう心掛けています。

職場体験の後、生徒さんからお手紙をもらったり、感想を聞いたりすると“患者さんとのコミュニケーションが最も大切であること”や“忙しい中でも患者さんに笑顔で接することの素晴らしさ”などを実感することが多いようです。

知識や技術だけでなく、患者さんと一緒に力をあわせて治療にあたる経験を通じ、素敵な医療人を目指すきっかけとなることを願っています。

訪問リハビリテーション　リハビリテーション部

リハビリテーション部では、自宅に退院後、運動量の減少および活動範囲の狭小に伴い、運動能力低下が懸念される患者さんを対象にサポートを行っています。実際の生活場面でリハビリを行うことで、患者さんに適したより具体的なアドバイスができ、入院中では把握できなかった課題にも対応することが可能となります。

在宅生活のイメージがつかない状態で退院する患者さんに対して、訪問リハビリの必要性はさらに高いものとなっています。

患者さんが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療と介護が切れ目なく一体的にかつ、持続的に提供できるよう努めていきます。

訪問リハの様子

園芸で心も身体も元気に　リハビリテーション部

患者さんの中には、仕事や趣味で園芸を行う方がおり、「育てた野菜や花で喜ばせたい」などの思いから退院後も園芸継続を希望されます。そのため、療法士は作業時の安全対策や動作指導を行いますが、土や植物の知識は乏しいため、園芸の奥深さや楽しさは患者さんから学んでいます。作業を共有し、意見交換を行うことでより深い信頼関係を築くことで入院生活が有意義なものになっています。患者さんからは「退院してもまた畑ができそう」と自信に溢れた言葉も増え、退院後の能動的な生活提供が行えています。園芸を行わない方でも、育てた野菜を漬物作りや調理訓練で利用することで、家庭の知恵を活き活きと披露し楽しみを見つけるきっかけにもなっています。

園芸療法の様子

入院中は屋内にいることが多く、持続的なストレスが抑うつや認知機能の低下を招くことがあります。園芸を共に行い鑑賞することで、四季を五感で感じ、植物の成長をみる喜びを共有し、気分転換を図ることで認知機能の賦活にも努めています。

市民公開講座　健診センター

当院では、地域の方々の健康増進に貢献するため、病気に対する知識を深めることを目的として医師の講演や各種健康測定を、平成28年から平成31年の間に「市民公開健康セミナー」として計5回開催しました。身長・体重・体脂肪・血圧・血糖測定の他、血管年齢、骨密度などの測定や医師による医療相談、栄養士による栄養相談、肺機能検査、ロコモ体操、健康すごろく等を実施しました。医師の講演までの待ち時間には講義室で職員による演奏会を行い、参加者からは大変好評でした。

市民公開健康セミナー

参加者は年々増加し、第5回には191人の参加があり、人数制限が必要になるほど盛況を博し、地域の方々の健康に対する関心が高いことを実感しました。今後も地域の方の健康に対する声に応えていきたいと思います

フレイル予防活動 リハビリテーション部

フレイル予防活動

当院では、飯塚市が推進するフレイル予防事業に積極的に参画し、地域住民の皆様の健康づくりをサポートしています。

フレイルとは、加齢に伴い心身の活力が低下した危険な状態を指します。この状態を放置すれば、要介護状態に陥る可能性が高まります。そこで当院では、専門のトレーナーが中心となり、自治体や民間企業、住民ボランティアの方々と連携し、フレイルチェックやサポーター養成講座などの予防事業を展開しています。

フレイルチェックでは、住民の皆様自身が自分の健康状態を確認し、口腔・栄養・運動・社会参加といった生活習慣の見直しを行うきっかけとなります。フレイルトレーナーは、そのチェックの現場で専門的なアドバイスを行います。また、住民ボランティアの方々を「フレイルサポーター」として養成し、活躍の場を提供することで、地域の担い手を育成する取り組みも行っております。

当院では、健康教室やイベントの開催を通じ、サポーターの方々とともにフレイル予防の啓発活動にも努めております。一人ひとりの健康寿命の延伸を目指し、自治体、企業、住民の皆様と力を合わせ、地域に根差した取り組みを推進してまいります。

病院内演奏会 K's Music Club

K's music club

入院患者さんの癒しや励みになればとの想いから、職員による演奏活動を始めて約 12 年が経ちました。当初の演奏者はわずか 2 名でしたが、メンバーも徐々に増え、今では 7 名となっており、企業クラブのような活動を行いたいという目標を持っています。

患者さんにとって入院生活は日常生活や社会活動から切り離され、人間らしい営みが損なわれます。そのため、精神活動の低下や抑うつ傾向に陥ってしまう方も少なくありません。

そのような患者さんの精神賦活の一助になるよう、季節感が味わえる曲や昭和歌唱などの懐メロ、テレビ等で聴き覚えのある最近の曲など幅広いジャンルや世代を超えた曲を毎回選曲しています。

また、演奏している職員も自分の特技や趣味が生かして、患者さんや職員の喜ぶ顔を見ることができ、この活動にやりがいを感じています。

健康情報誌「なでしこ散策」 経営企画室

なでしこ散策

当院では年４回、健康情報誌を発行しています。これには健康に関する情報の他、行政からの情報等を掲載しています。地域にも設置しており、多くの方がより身近に健康情報を知ることができるよう工夫しています。

地域の皆様の健康増進はもちろんのこと、当院は社会福祉法人として、「無料低額診療事業」にも取り組んでおり、病院にかかれずに困っている方への情報提供のためにもこの「なでしこ散策」を活用してもらえればと思っています。

紫陽花いっぱい運動 病院サービス室

この運動は、職員の家庭などで枯れてしまった紫陽花の鉢植え等を集め、緩和ケア病棟前の散策路沿いに植え替えていくものです。捨てられる紫陽花を再生することで、散策路をたくさんの紫陽花で埋め尽くし、入院患者さんや職員の癒し、リハビリで散歩する際の癒しになること、自然を大切にすることを目指しています。この運動のポスターを作成し、イメージ図を掲載することで一人でも多くの職員に賛同してもらえるよう工夫をしました。

散策路が紫陽花でいっぱいになるまでには相当な年月が必要となりますが、地道に植え替えや手入れを行っていくことで、季節ごとに色とりどりの花が咲き誇り、散歩を行う人たちの癒しにつながる散歩道になればと思います。

紫陽花いっぱい運動ポスター

医工学連携事業 経営企画室

当院では、2015 年 8 月より医療機器の開発や改良に寄与する「医工学連携事業」に協力してきました。これらの推進のため、福岡県や飯塚市などの行政や九州工業大学、飯塚病院等とともに「飯塚医療イノベーション推進会議」の一員として、地域と連携しながら事業に取り組んでいます。

中でも飯塚病院と飯塚市立病院、当院が連携し、医療機器メーカーや学生などの医療現場観察の受入れを行い、実際の現場から発見されるニーズを元に医療機器開発や改良に役立ててもらうことを目的とした「飯塚メディコラボ」は日本初の取り組みとして知られています。

近い将来、飯塚メディコラボから生まれた「安全・安心な医療機器」が普及し、医療機器産業の発展による地域の雇用確保等にもつながるように貢献していきたいと考えています。

飯塚メディコラボの出展

済生会健康フェア 経営企画室

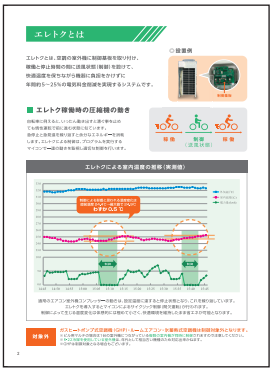
当院では、2017 年から「済生会健康フェア」を過去 4 回開催しており、地域の方々に健康や医療に興味を持ってもらうことや、当院を知ってもらうこと、さらにはまちづくりに貢献することを目的としています。健康測定や病院お仕事体験など病院ならではのイベントをはじめ、地元の幼稚園や保育園、学校などによる歌や踊り、演奏などのイベントも行いました。地域の方々と協力しながら、ともに創り上げるイベントとなっています。

今後も地域活性化につながり、皆さんに楽しみながら学んでもらえるイベントとして、開催できればと考えています。

済生会健康フェア

エレトクによる消費電力量の削減 経理課

　エレトクとは、空調の室外機に制御基板を取り付け、稼働と停止時間の間に送風状態（制御）を設けて、快適温度を保ちながら、消費電力量の削減を実現するシステムです。
　当院では令和３年３月より導入しましたが、病院全体の消費電力量に対し、エレトクによる削減電力量の割合はおよそ５％あり、安定的な室温を維持しつつ、効率よく空調の電力を使用することができています。
　また、電力を削減することにより、二酸化炭素の排出量の削減にも寄与しております。
　今後は１つ１つの空調の室外機の制御基板を分析し、労働環境を損なうことなく、削減効果を高め、エネルギー効率を高めていこうと思います。



エレトクのチラシ

落葉で腐葉土作り 病院サービス室

　病院敷地内で腐葉土づくりを始めました。木々に囲まれた広い敷地の落葉掃除は大変ですが、その一部を籾殻や土を混ぜ込み半年から１年で自然発酵させ腐葉土にリサイクル。院内の庭や作業療法の菜園で活用する計画です。地元農協の精米センターから醗酵籾殻を軽トラ一杯いただいてきました。

腐葉土づくりの様子

伐採木の再活用 病院サービス室

　当院の敷地は多くの樹木に囲まれて自然豊かな環境ですが、環境整備のための毎年の手入れが大変です。特に剪定や伐採で発生した丸太や太い枝の処分に手間がかかることが悩みでしたが、伐採作業を見ていた患者さんのご家族から「ストーブの燃料にしたいので不要な材木を引き取りたい…」とのお話しがありました。
　また、別の入院患者さんからも同様の申し出がある等、材木には様々な活用例があることが分かり、これからは廃棄する材木は処分するよりも資源として活用することに取り組みたいと思います。

伐採の様子

５ブロック地域包括ケアシステム推進協議会

地域連携福祉事業課

「地域医療・在宅医療の充実」と「継続性のある医療・介護サービスの提供」を目的とし、飯塚市・嘉麻市・桂川町を５つのブロックに分けて、連携医療拠点病院を中心に民生委員をはじめとした地域住民、在宅医療・介護従事者と連携協議の機会を設け、地区単位での地域包括ケアシステムの構築を図り、誰もが安心して住み慣れた地域で過ごすことができる『住みやすい街づくり』を目指す取り組みです。

当院は、『桂川町、筑穂、筑穂西、筑穂東地区』を担当しています。住民も直接議論の場に入り、地域課題を見つけ、課題解決につなげることが全国的にも珍しい取り組みと評価を受けています。

協議会の様子

フード＆学用品、日用品ドライブ活動

地域連携福祉事業課

「あなたの小さなやさしさは、誰かの大きな未来になる」を活動コンセプトとし、年４回実施しています。フード＆学用品ドライブとは、自宅で使いきれない未開封の米やレトルなどの食品や、タオルやトイレットペーパーなどの日用品、鉛筆やノートなどの学用品を、集めて必要としている団体に寄付する活動です。院内職員や患者さん家族、外来患者さんなどから寄せられた物品は、NPOフードバンク飯塚、フリースクールみんなのおうち、嘉麻市リユースセンターなどに寄付させていただき、物価高騰の中生活が苦しい子育て世帯への支援に取り組んでいます。

寄せられた物品

SDGsと済生会

SDGsの「誰一人として取り残さない」という理念は、済生会が創設以来、活動の柱としてきた理念そのものです。

済生会は、保健・医療・介護・福祉事業を通して地域とつながっています。その地域をどんな人にも合った「まち」、だれも排除されない「まち」にして、共に生きていくことを理念とし、地域社会に参加していくことを「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」として全国の済生会で進めています。

SDGsについては、中期事業計画（5ヵ年計画）と関連付けながら、済生会全体で取り組んでいます。済生会がこれまで行ってきた生活困窮者支援事業をはじめとする各事業とSDGsは親和性が高いため、これまでの事業をSDGsの視点で見直し、強化することで自ずと目標達成に貢献できますが、最先端の取り組みを積み重ねていき、日本国内にとどまらず、世界へ発信、貢献していくことで済生会の事業発展にも繋がると考えられています。

制作・発行　済生会飯塚嘉穂病院経営企画室

2021年12月　初版発行
2022年　4月　第2版発行
2023年　4月　第3版発行
2024年　4月　第4版発行
2025年　4月　第5版発行